

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名

【 熊本県 】 甲佐町立甲佐中学校

1 実践テーマ	【 III V 】
2 実施対象者	生徒 228 名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (学校行事) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会への機運を高める。
5 取組内容	パラリンピアンによる講演会及び実技指導 平成29年12月14日（木）に本校にて、鈴木朋樹氏（車いす陸上）を迎え、講演会及び実技指導を行った。 (1) 講演 『夢に向かって 夢を見つけること』という題で行われた講演では、鈴木氏が障害を負った経緯、車いす陸上を始めた経緯、陸上をしているときの気持ち、そして、自分の進路選択のときの決断などについてお話いただいた。詳細は以下の通りである。 生後8ヶ月で事故により車いすの生活になったため、車いすが変なことではなく、みんなが立っていること、歩いていること、走っていることと同じ感覚で車いす生活を送っている。そして、元々体を動かすことが好きだったが、地元クラブチームなどの環境がなかったことから、横浜のクラブチームに加入した。そして、車いす陸上では他の人より速く走れる感覚を得ることができ、また走っているときは何も考えずに爽快感を感じることができることから、自分に向いている、という思いが強くなった。 しかし次第に、周りから立てないなんてかわいそうと思われるのではないかとということが気になるようになっていった。しかし、小学校5年生のときに花岡伸和氏（車いす陸上）に出会い、乗り越える

	ことができた。その後も花岡氏とは、交流をさせてもらい、車いす陸上だけでなく、人間的にも成長をすることができた。 高校卒業時には、進路について自分が将来本当にやりたいことは何か、を本気で悩んだ。そして、セカンドキャリアを考え、自分の行きたい大学を選択した。そして自分で選択した大学であったからこそ、大学では、勉強の後に、自分で競技場やジムを見つけて練習を重ね、もっと強くなりたいと思うようになった。 リオデジャネイロ大会には、出場できなかったが、東京大会では、メダルを獲得したい。そのために、国内外を問わず、色々な大会に出場して、経験を積むことが必要だと考えた。2017年4月からはトヨタ自動車に入社し、海外の大会にも挑戦している。頑張ってもうまくいかな、努力しても無駄だと思うこともあるが、それ以上に競技でよい成績を出したいという思いのほうが強い。だから、頑張ることができる。
6 主な成果	講演内容からみた成果 自分の将来について真剣に考えることの大切さを学んだ 障害者の人たちが特別視されることを嫌だと感じていることを学んだ
7実践において工夫した点 (事業の特色)	レースの様子を映像でみるだけではなく、競技用車椅子を実際にさわったりするなどの体験も実施した。
8主な課題等	町全体としての事業実施の確立
9来年度以降 の実施予定	実施予定